【本日の聖書から】　　　「王の務めとは何か」　　　サムエル下 5:1-5
ルカ 23:35-38

「イスラエルの長老たちは全員、ヘブロンの王（ダビデ）のもとに来た。ダビデ王はヘブロンで主の御前に**彼らと契約を結んだ**。長老たちはダビデに油を注ぎ、イスラエルの王とした」（サムエル記下 5:3）。悪霊に苦しむサウル王を慰める竪琴の奏者として呼ばれたダビデは、＜戦士の長＞にも取り立てられました。その功績と名声が人々からたたえられるようになると、サウル王の心の中に猜疑と敵意が生まれ、ダビデは命をねらわれるようになりました。

サウル王の死後、ダビデは主の言葉にしたがってヘブロンの町に住みました。それから**ユダ**の人々がやって来て、そこでダビデに油を注いでユダ家の王としました。一方、サウルの将軍アブネルとサウルの子イシュ・ポテトが死ぬと、イスラエルの全部族の代表がヘブロンにいるダビデのもとに集まり、「わたしたちは骨肉＝血を分けた兄弟です。それにサウルが王であった時もイスラエル軍を率いて指揮を執ったのはあなたでした。主はあなたに仰せになりました。『わが民イスラエルを牧するのはあなただ。あなたがイスラエルの指導者となる』と。こうしてダビデは南ユダと北イスラエル 10 部族を治めるイスラエル統一王国の王となりました。

しかしながら、「奴隷の家から」イスラエルを解放する**出エジプトの神ヤハウェ**は、人間が人間を支配することをよしとしない反王権的存在です。イスラエルの王制導入に反対する勢力も働いていました（サムエル記上 8:4 以下）。「主の御前に彼らと**契約を結んだ**」のは、**王の職務について**の取り決めでしょう。内容は徴兵制と常備軍の設置、武器の製造と人員・食料の調達など経費の徴収（サムエル上:11-20）。申命記は、王は同胞の中から立てる、軍備増強の制限、大勢の妻をとることと私財を蓄えることの禁止、律法の順守と謙遜を規定しています（申命記 17：14）。

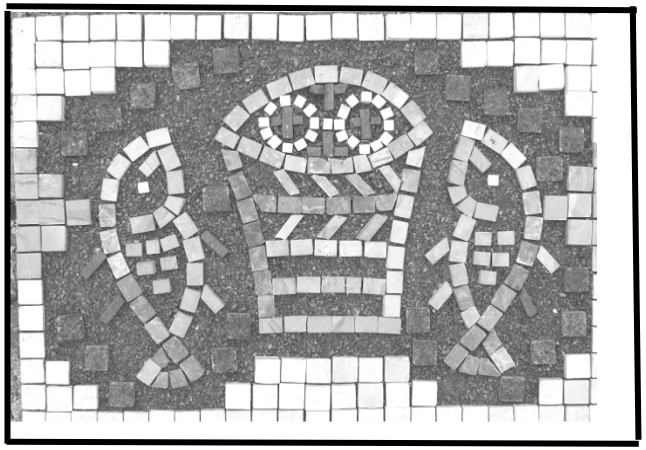
イスラエルの理想の王と称賛されるダビデ王も契約は有効に働かず、神ヤハウェは「皮肉にもダビデ王朝の『万世一系』の支配を正当化する王朝の守護神に変身していきました」（山我哲雄）。ソロモン王にいたって契約は破綻し、彼の死を契機に、「ダビデのうちに、我々の受け取るべき分はない。エッサイの子のうちに我々の受け継ぐべき分はない。イスラエルよ、それぞれ自分の天幕に帰るがよい」と、北の 10 部族は去っていきました（サムエル下 20：1 列王記上 12:16）。

ルカ福音書では、イエスを十字架につけた人々や兵士たちが、十字架上のイエスを指して「ユダヤ人の王」とののしり、侮辱しました。まさしく、このイエスこそ「**まことのユダヤ人の王**」、そして**メシヤ＝王の職務を全うした者**でした。

日本キリスト教団浦河教会

週　報

№34　2022 年 11 月 20 日



教会創立 1956 年

〒057－0022　　北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32
電話（FAX）0146-22-2904
牧 師　**五　味　　一**
電話（FAX）0146-26-3043

今年度標語　「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」（テサロニケの信徒への手紙5:16.17）

２０２２年１１月２０日（No34）

主　日 礼　拝

司会：山根耕平　　奏楽　齋藤　仁

前　奏		奏楽者
讃美歌	８５（二回）	一　同
祈　り		司会者
聖　書	サムエル記下５章１～５節（旧約聖書４８７頁） ルカ福音書２３章３５～３８節（新約聖書１５８頁）	司会者
讃美歌	１６	一　同
分かち合い礼拝	聖書の感想と一週間をみんなで分かち合う	
讃美歌	３５８	一　同
献金と感謝の祈り		一　同
主の祈り	６２	一　同
頌　栄	キリストの平和が（1･５ ）	一　同
祝　祷		一　同
報　告		

新しく来られた方・久しぶりの方の紹介

【本日の集会】

◇主日礼拝　　１０時３０分　　　　礼拝堂

◇お茶の会　　　　　礼拝後

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会　　　　　礼拝堂

・１１月２３日（水）

アモス書５章１６～２７節

（旧約聖書１４３５頁）

讃美歌　３０３、　５３１

【次週の予定】

◇降誕前第４・アドヴェント第1主日礼拝

・１１月 ２７日（日） 午後２時　　　礼拝堂

・聖　書　エレミヤ書３３章１４～１６節

（旧約聖書１２４１頁）

ルカ福音書２１章２５～３６節

（新約聖書１５２頁）司会者

・説　教　　「主はわれらの救い」

五味　一　牧　師

・讃美歌　　２４２、　４３０

【来週の礼拝司会者を決めましょう】

①　和田智子　②広瀬秀幸　③吉田公子 ④伊藤知之 ⑤山根耕平 ⑥岸澤恵美　⑦高崎晋　⑧山本潔　⑨早坂潔　⑩荻野仁

【集会統計】

集会名	参加者	献　金
主日礼拝（11月13日）	コロナ感染防止 休会	
祈祷会（11月16日）	６名	

♫本日の讃美歌 ♫

♭讃美歌１６「われらの主こそは」。作詞はイギリスのジョサイア･コンダ－(1789-1855)。詞はヨハネの黙示録19章6節「わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。『ハレルヤ、全能者であり、わたしたちの神である主が王となられた』」にもとづくもの。作曲はイギリス人牧師レーエフ.ハリソン(1748-1810)。

早めのテンポで力強く歌いましょうと、指示があります。

♯讃美歌讃美歌３５８「小羊をばほめたたえよ」イギリスの詩人マシュー・ブリッジス(1800-94)の詩に、イギリスの牧師スリング((1823-1903)が手を入れたものです。日本語訳は「小羊を」「主なるイエスを」「いのちの主を」「王なるイエスを」と、さんびの対象がわかりやすくなっています。作曲はイギリス人ジョージ・エルヴィー(1816-93)。１９歳の若さでウインザー城の聖ジョウジ・チャペルのオルガニストに任命され、王室の家庭教師を務めました。

頌栄　キリストの平和が

1．キリストのへいわが　わたしたちのこころの
すみずみにまで　 ゆきわたりますように

5．キリストのゆるしが　わたしたちのこころの
すみずみにまで　　ゆき　　わたりますように